



予防課 電話(47)2208

寒くなり、クリスマスや正月などのイベントや、スキーなどのウィンタースポーツ、鍋や餅などのおいしい食べ物などの楽しみがたくさんある季節になりました。そんな寒い季節には、切っても切れないものがあります。それは「火災」。火災は一年を通して発生しますが、冬は火災の件数が多い季節です。今回は、皆さんの冬の楽しみの影に潜む、火災の特徴や、火災が発生したときの対処法について紹介します。

数字で見てみよう

令和3年度の全国の火災の実態

総出火件数 35,077件

▶▶ 日本で、1日96件 15分に1件 火災が発生している

住宅火災による死者数 913人

▶▶ 高齢者が、約75%(682人) を占めている

出火原因 第1位 たばこ (3,017件)
第2位 たき火 (2,725件)
第3位 こんろ (2,667件)

出典：消防庁



なんで冬は火災が多くなるの？

1 暖房器具などの火気を使う機会が増えるから

▶▶ カーテンや毛布がストーブに掛かり、火災が発生することもあります。

2 空気が乾燥し、火災が発生しやすい気象条件になるから

▶▶ ちょっとした火の気が、大きな火災につながります。



確認してみよう

火災を起こさないためのチェックリスト



習慣

- 寝たばこをしない、させない。喫煙は、灰皿のある決まった場所で。
- ストーブの周りに燃えやすい物を置かない。つけたまま灯油を給油しない。壁から適正距離を空ける。
- こんろを使うときは、火のそばを離れない。離れるときは、火を消す。こんろ周りの整理整頓。
- コンセントは定期的に清掃し、不必要なプラグは抜く。たこ足配線の多用やコードを束ねたままの使用をやめる。

対策

- ストーブやこんろは、安全装置の付いた物を使う。
- 火災早期発見のため、住宅用火災警報器を定期的に点検し、10年を目安に交換する。
- 火災の拡大を防ぐため、部屋を整理整頓し、寝具・衣類・カーテンは防災品を活用する。
- 消火器などを設置し、使い方を確認しておく。
- 日頃から避難経路と避難方法を確認しておく。
- 自治区などの訓練に積極的に参加し、地域ぐるみで協力体制を確認する。

いつも心に火の用心 火災から大切な命を守ろう



昨年は、市内でも十数年ぶりに火災により2人の尊い命が失われました。火災で一番恐ろしいのは炎ではなく、煙です。煙に含まれる一酸化炭素を吸うことで、一酸化炭素中毒となり、体が動かなくなってしまい、逃げ遅れて命を失います。逃げ遅れを防ぐためにも、いち早く火災に気付くことが重要です。火災の原因はさまざまですが、その火災が少しでも起きないように、今一度チェックリストを周りの人と一緒に確認してください。

住宅用火災警報器が

早期発見に活躍



台所のガスこんろで魚を焼いている最中にその場を離れてしまい、魚焼きグリルから大量に発煙

▶▶ 別の部屋にいた住人が警報音に気付き、火災にならずに済みました。

寝たばこをしてそのまま就寝 布団にたばこの火が落ちて着火

▶▶ 警報音で異常に気付き、消火して大事になりませんでした。

教えてファイアーX

火災発生時の対処法

万が一火災が発生したときは、落ち着いて次の行動をしましょう。

□ 大きな声で「火事だ」と叫び、火災の発生を周囲に知らせる

□ 119番通報する

□ 避難する

□ 煙を吸わないように、体を低くして、なるべく新鮮な空気を吸う

□ 火が衣服についたときは、近くの水で消すか、転がって消すか、脱ぎやすい服は脱いで消す

□ 可能な限り初期消火をする

□ 初期消火をする

消火器を使う合言葉

ピン・ボン・パン

1 「ピン」

ピンを抜く

2 「ボン」

ホースを外す

3 「パン」

レバーを握って噴射する

必ず逃げ道を確認してから使いましょう。ただし、天井まで炎が届いている場合は、消火器では消火困難ですので、直ちに避難しましょう。

